2017年度決算
2018年度業績見通し
説明資料

星光PMC株式会社（東証1部 4963）
2018年2月22日

目次

✧ Ⅰ. 事業内容・当期の事業環境　P 2～3

✧ Ⅱ. 2017年度決算（連結）　P 4～7

✧ Ⅲ. 2018年度業績見通し（連結）　P 8～9

✧ Ⅳ. 事業別動向　P 10～12

✧ Ⅴ. 新規開発品・注目製品のご紹介　P 13～16

✧ Ⅵ. 中期経営計画「CS VISION-Ⅱ」　P 17～19

＜予想に関する注意事項＞

・本資料では情報の提供を目的としており、勧誘行為を行うものではございません。
・業績見通しは現時点で入手可能な情報に基づき、当社の経営者が判断した見通しでございますが、実際の売上高および利益は、記載している予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。
・当社は業績見通しの正確性・完全性に関する責任を負うものではございません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。
・本資料に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負うものではございません。

Ⅰ.事業内容

➢ 製紙用薬品事業

サイズ剤
紙力増強剤
印刷適性向上剤
製紙用補助薬品

⇨

〈主な用途〉

紙　新聞用紙
印刷・情報用紙
家庭紙 他

板紙　段ボール原紙
紙器用紙 他

➢ 樹脂事業

各種印刷インキ用樹脂
記録材料用樹脂

⇨

〈主な用途〉

オフセットインキ
新聞インキ
フレキソインキ
グラビアインキ
トナー 他

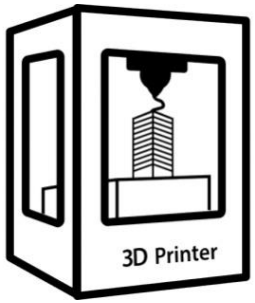
➢ 化成品事業（KJケミカルズ株式会社）

各種機能性モノマー

⇨

〈主な用途〉

木工用UVコート剤、水系塗料、
製紙用薬品、粘・接着剤、
石油掘削用ポリマー、
UVインキ、化粧品、電子材料 他

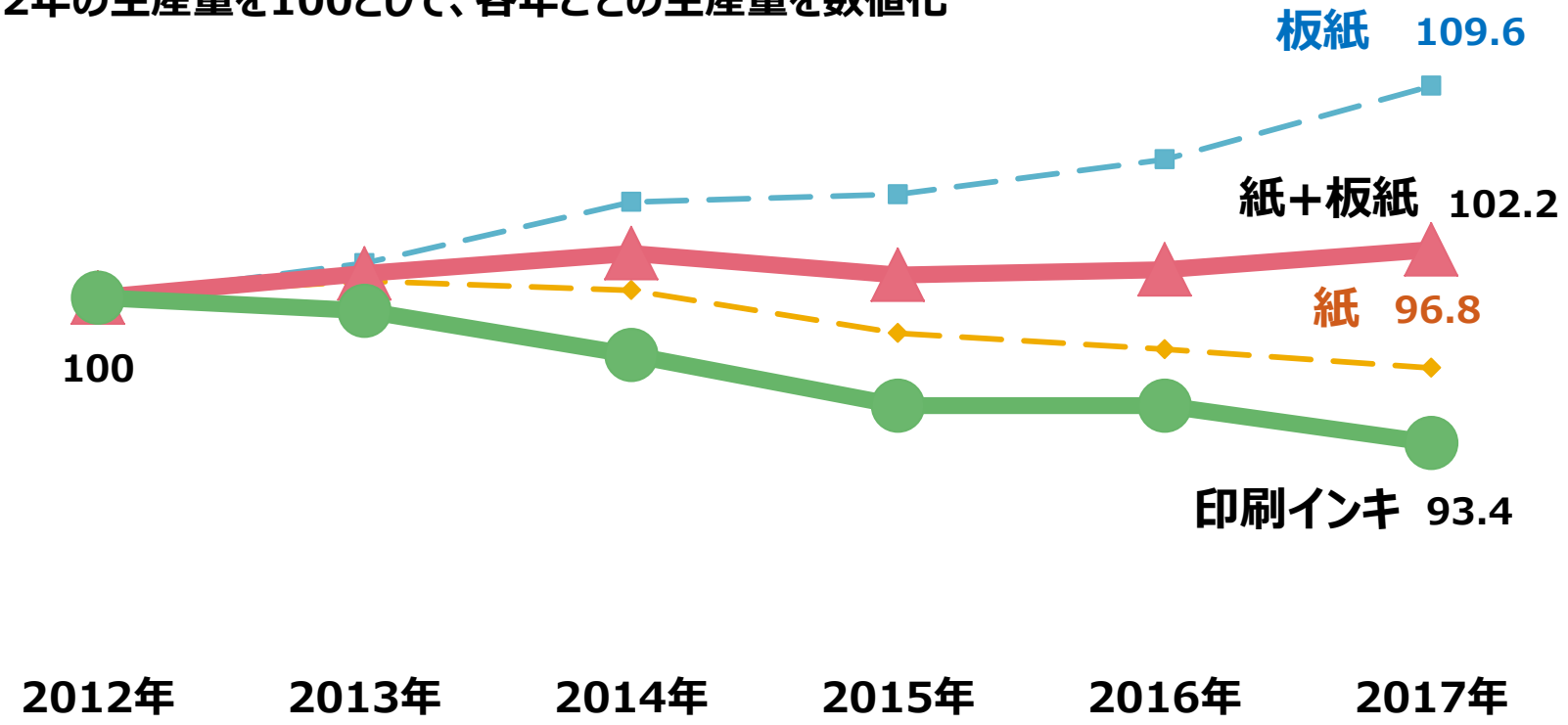


Ⅰ.当期の事業環境

・国内の紙・板紙の生産量は2,652万トン(前年比+0.9%)の微増、
　印刷インキは34万トン(同▲1.4%)と減少。
・2012年からは板紙は堅調、紙および印刷インキは減少基調が続く。

＜紙＋板紙・印刷インキ国内生産量＞

＊2012年の生産量を100として、各年ごとの生産量を数値化

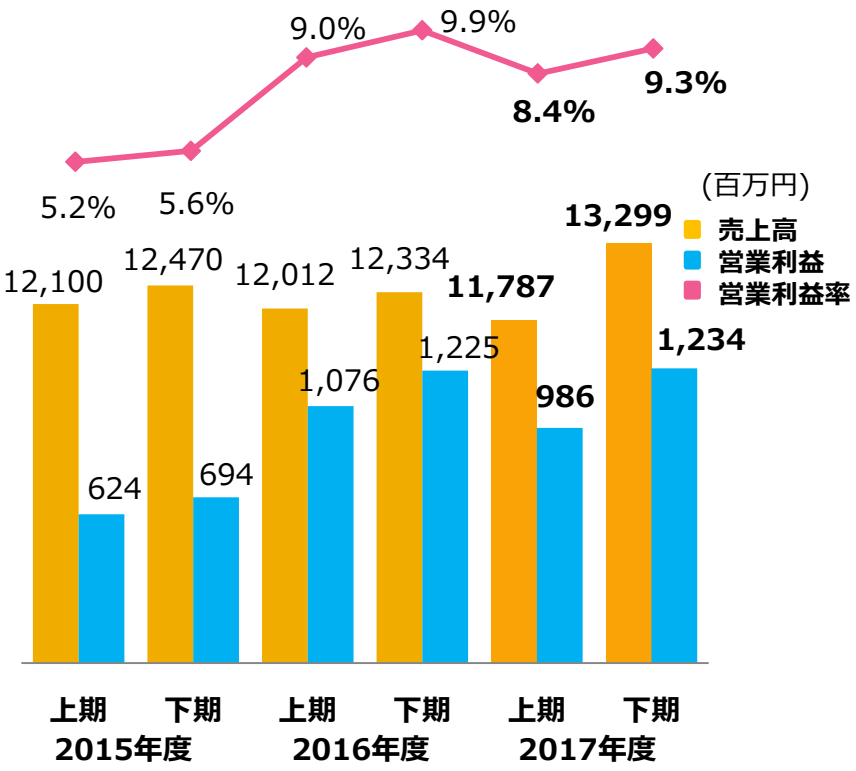


II.2017年度決算（連結）概況

(百万円)	2016年度	2017年度	前年比	
	実績 *2	実績 *2	増減	増減率
売上数量(トン)	166,512	170,588	+4,076	+2.4%
売上高	24,346	25,086	+740	+3.0%
営業利益	2,301	2,220	▲81	▲3.5%
営業利益率	9.5%	8.8%	-	-
経常利益 *1	2,314	2,464	+150	+6.5%
経常利益率	9.5%	9.8%	-	-
当期純利益	1,794	1,999	+205	+11.4%
減価償却費	902	945	+43	+4.8%
設備投資	883	1,243	+360	+40.8%
研究開発費 (対売上高比率)	1,719 (7.1%)	1,677 (6.7%)	▲42	▲2.4%

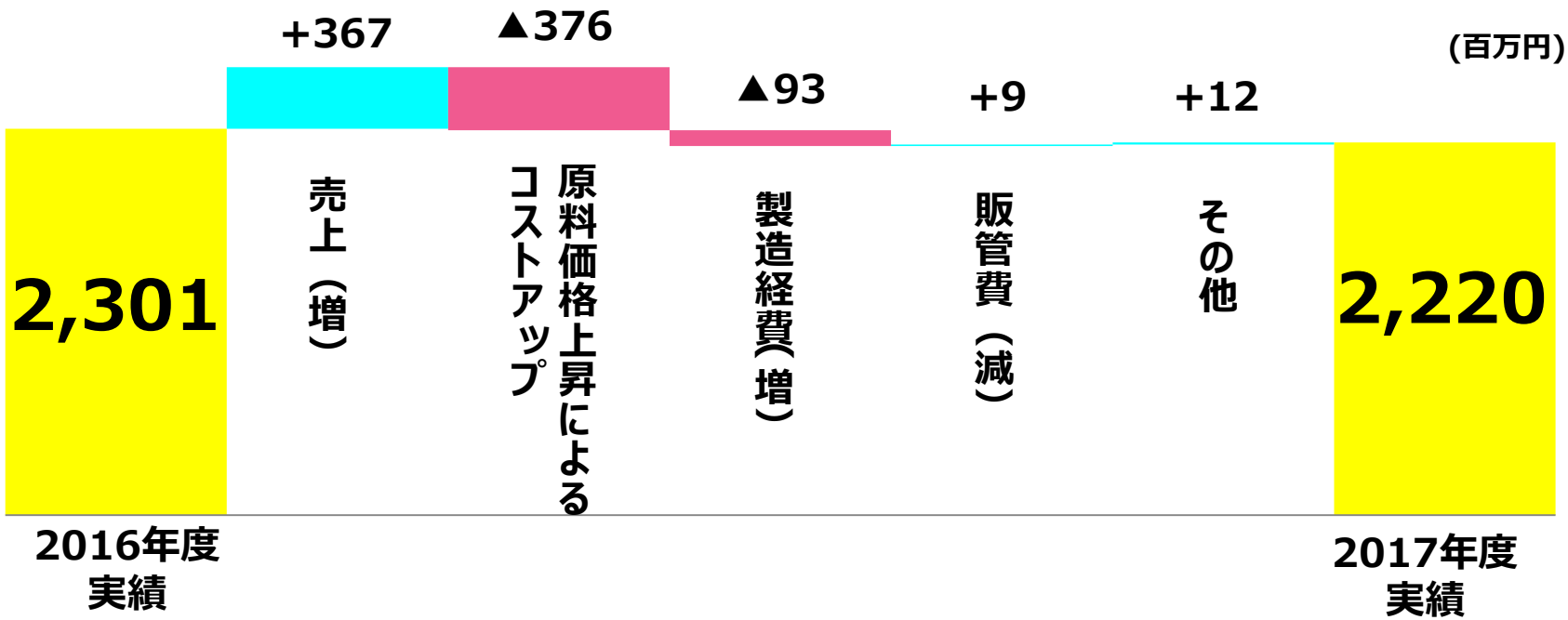
*1：営業外収益・・・・・新綜工業の持分法利益(1億4,600万円)、
為替差損益の改善(1億300万円)を含む
*2：2017年度平均　為替1ドル＝113円、ナフサ価格40,400円
(2016年度平均　為替1ドル＝109円、ナフサ価格32,800円)

国内・海外ともに製紙用薬品が堅調に推移し7億4,000万円の増収も、原料価格上昇の影響を受け減益。



Ⅱ.2017年度決算（連結）営業利益増減分析

2016年度実績 →　2017年度実績
23億100万円 →　22億2,000万円（▲8,100万円、▲3.5%）



・国内、海外での売上増（+3億6,700万円）

・原料価格上昇によるコストアップ（▲3億7,600万円）

Ⅱ.2017年度決算（連結）連結貸借対照表

(百万円) 科　　目	2016年 12月末	2017年 12月末	前年比
現金・預金	1,361	1,429	+68
受取手形・売掛金	10,905	11,779	+874
たな卸資産	3,190	3,365	+175
短期貸付金	3,716	3,267	▲449
その他の流動資産	512	571	+59
流動資産 合計	**19,684**	**20,412**	**+728**
有形固定資産	9,053	9,316	+263
無形固定資産	95	95	±0
投資その他の資産	1,281	2,283	+1,002
固定資産 合計	**10,429**	**11,694**	**+1,265**
資産合計	**30,113**	**32,106**	**+1,993**

(百万円) 科　　目	2016年 12月末	2017年 12月末	前年比
支払手形・買掛金	3,579	4,109	+530
短期借入金	830	830	±0
その他流動負債	2,972	2,844	▲128
流動負債 合計	**7,381**	**7,783**	**+402**
退職給付引当金	-	-	-
退職給付に係る負債	823	405	▲418
その他の固定負債	285	371	+86
固定負債合計	**1,108**	**776**	**▲332**
負債合計	**8,489**	**8,559**	**+70**
株主資本：			
資本金	2,000	2,000	±0
資本剰余金	1,566	1,566	±0
利益剰余金	18,257	19,893	+1,636
自己株式	-104	-105	▲1
その他包括利益累計額：			
為替換算調整勘定	108	181	+73
その他	△203	12	+215
純資産合計	**21,624**	**23,547**	**+1,923**
負債及び純資産合計	**30,113**	**32,106**	**+1,993**

自己資本比率	**71.8%**	**73.3%**

- **実質無借金経営を継続**
- **当期末の自己資本比率は73.3%**

II.2017年度決算（連結）PL／CF

損益計算書

(百万円) 科　　目	2016年度	2017年度	前年比
売上高	24,346	25,086	+740
売上原価	17,591	18,366	+775
売上総利益	**6,755**	**6,720**	▲35
販売管理費	4,454	4,500	+46
営業利益	**2,301**	**2,220**	▲81
金融収支	13	15	+2
為替差益	▲86	17	+103
その他	86	212	+126
経常利益	**2,314**	**2,464**	+150
特別利益	107	78	▲30
特別損失	47	47	▲1
税金等調整前損益	**2,374**	**2,495**	+121
法人税等	580	496	▲84

- **現金および現金等価物の期末残高は、14億2,900万円**

キャッシュ・フロー

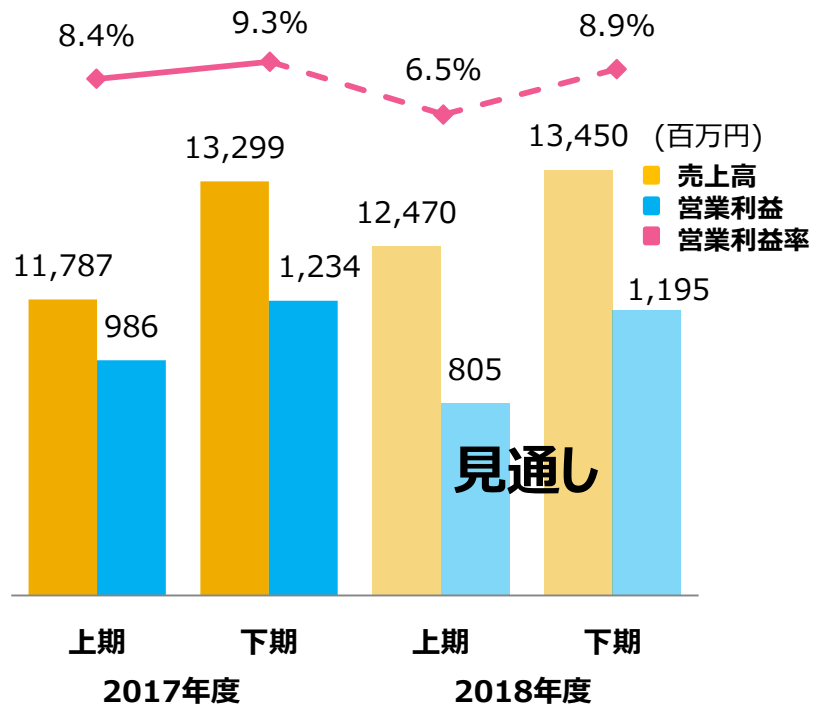
(百万円)		2016年度	2017年度
営業活動によるCF	税金等調整前当期純利益	2,374	2,495
	減価償却費	902	945
	法人税等の支払額	▲526	▲669
	運転資本の増減額	25	▲764
	その他	119	▲361
	計	**2,894**	**1,646**
投資活動によるCF	有形固定資産の取得による支出	▲587	▲983
	無形固定資産の取得による支出	▲12	▲28
	有形・無形固定資産の売却による収入	82	116
	投資有価証券の取得による支出	▲155	▲723
	短期貸付金の純増減額	▲1,004	449
	その他	2	▲44
	計	**▲1,674**	**▲1,213**
財務活動によるCF	配当金の支払額	▲363	▲363
	その他	▲278	▲9
	計	**▲641**	**▲372**
現金および現金等価物に関わる換算差額		▲34	8
現金および現金等価物の増減額		543	68
現金および現金等価物の期首残高		817	1,361
現金および現金等価物の期末残高		**1,361**	**1,429**

Ⅲ.2018年度 業績見通し（連結）

(百万円)	2017年度	2018年度	前年比	
	実績	見通し	増減	増減率
売上数量(トン)	170,588	176,036	+5,448	+3.2%
売上高	25,086	25,920	+834	+3.3%
営業利益	2,220	2,000	▲220	▲9.9%
営業利益率	8.8%	7.7%	-	-
経常利益	2,464	2,139	▲325	▲13.2%
経常利益率	9.8%	8.2%	-	-
当期純利益	1,999	1,615	▲384	▲19.2%
減価償却費	945	1,052	+107	+11.3%
設備投資	1,243	1,665	+422	+34.0%
研究開発費 （対売上高比率）	1,677 (6.7%)	1,768 (6.8%)	+91	+5.4%

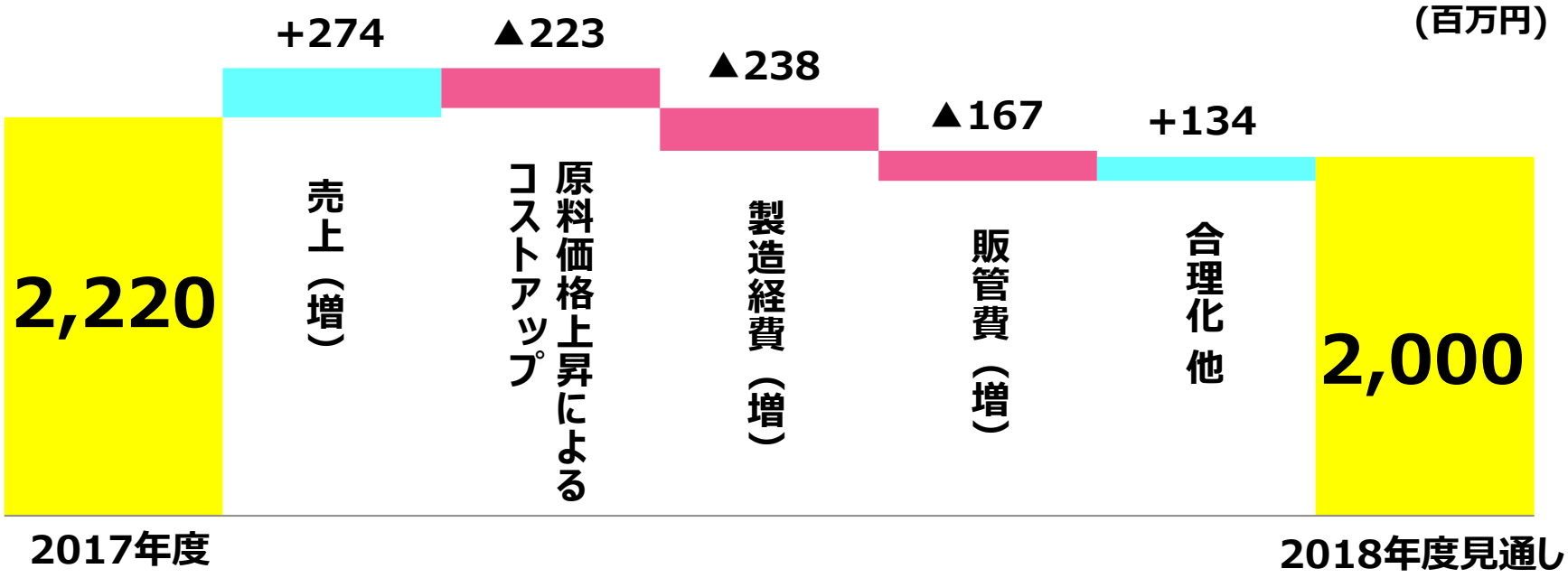
見通しは為替1ドル=112円、ナフサ価格45,000円を前提としております。
（2017年度平均：1ドル=113円、ナフサ価格40,400円）

国内・海外で拡販に努め、3.3%の増収を計画するも、原料価格上昇、人件費・償却費等の経費増が見込まれ、減益の見通し。



Ⅲ.2018年度 業績見通し（連結） 営業利益増減分析

2017年度実績　→　2018年度見通し
22億2,000万円　→　20億円（▲2億2,000万円、▲9.9%）



- 海外を中心とした売上増（+2億7,400万円）
- 原料価格上昇によるコストアップ（▲2億2,300万円）
- 製造経費・販管費増（▲4億500万円）

Ⅳ.事業別動向（製紙用薬品事業）

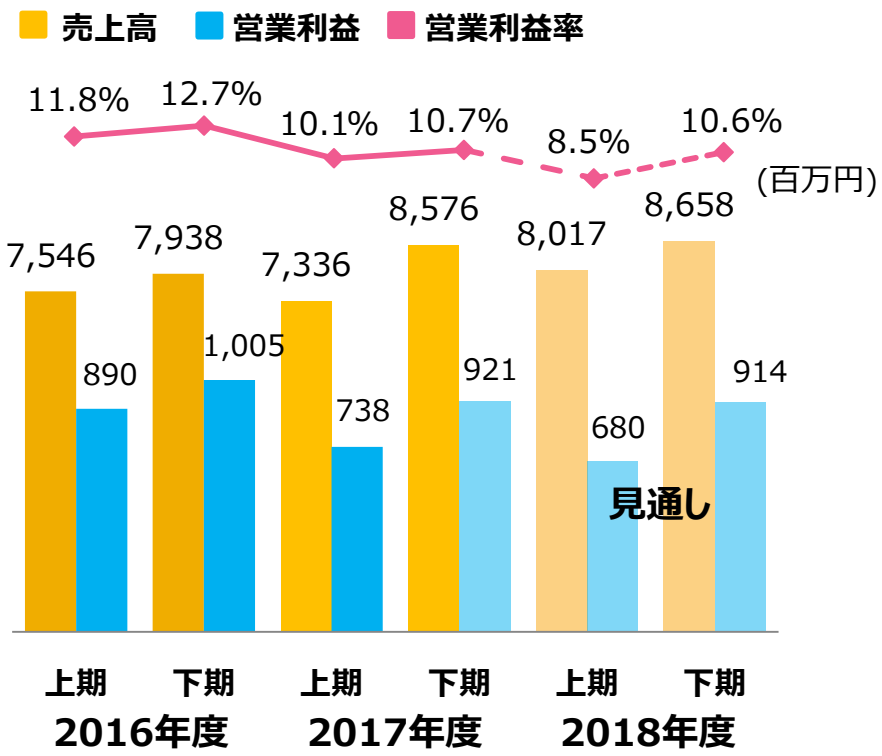
(百万円)	通期実績 2016年度	2017年度	増減	増減率	通期見通し 2018年度	増減	増減率
売上高	15,484	15,912	+428	+2.8%	16,675	+763	+4.8%
営業利益	1,895	1,659	▲236	▲12.4%	1,594	▲65	▲3.9%

2017年度実績

国内・中国ともに、段ボール原紙向けの製品出荷が堅調に推移し増収となったが、中国をはじめとした原料価格の高騰により減益。

2018年度見通し

需要が堅調な板紙・家庭紙向けに拡販を計画、中国も差別化製品投入により拡販に努めるも、原料価格上昇の影響で減益の見通し。



Ⅳ.事業別動向（樹脂事業）

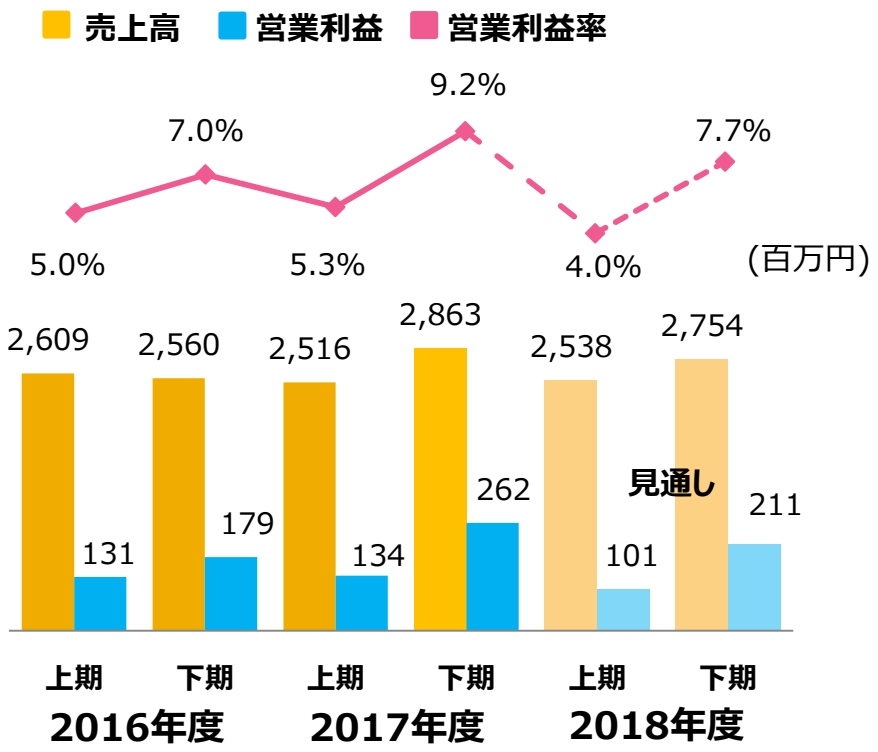
(百万円)	通期実績 2016年度	2017年度	増減	増減率	通期見通し 2018年度	増減	増減率
売上高	5,169	5,379	+210	+4.1%	5,292	▲87	▲1.6%
営業利益	310	396	+86	+27.7%	312	▲84	▲21.2%

2017年度実績

新聞インキ・オフセットインキ市況の悪化も、
グラビア・フレキソインキ用樹脂、トナー用樹脂の販売が
堅調に推移し増収・増益。

2018年度見通し

国内外のグラビア・フレキソインキ用樹脂の拡販、
新規製品の立ち上げを計画するも、引き続き新聞インキ・
オフセットインキ市況の悪化により減収、減益の見通し。



Ⅳ.事業別動向（化成品事業）

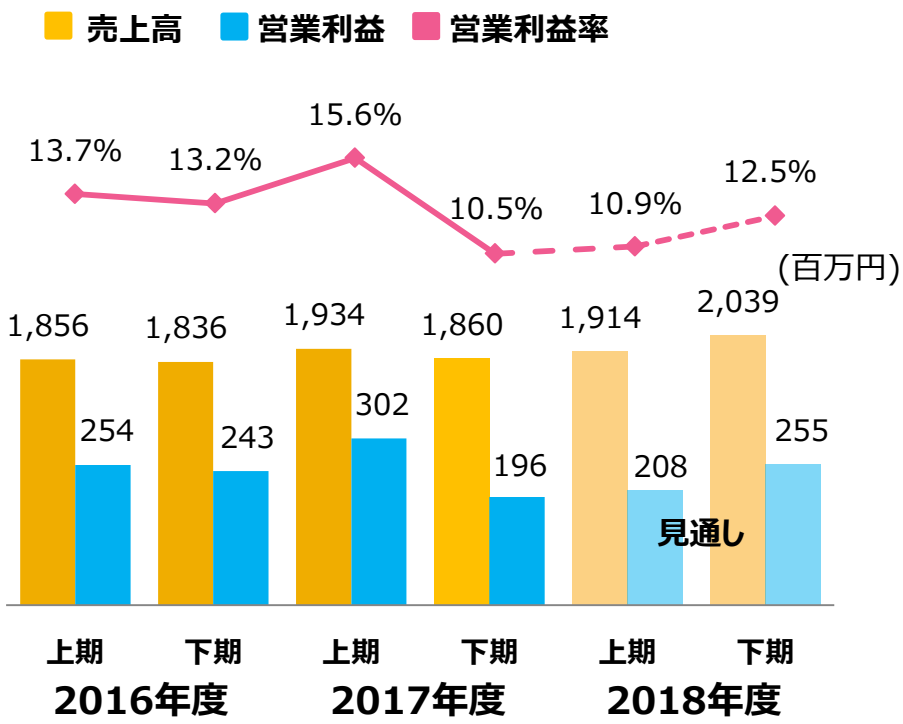
(百万円)	通期実績 2016年度	2017年度	増減	増減率	通期見通し 2018年度	増減	増減率
売上高	3,692	3,794	+102	+2.7%	3,953	+159	+4.2%
営業利益	497	498	+1	+0.2%	463	▲35	▲7.0%

2017年度実績

水系塗料向け製品の販売が好調により増収も、
人件費や海外登録費用等販管費の増加により
営業利益は前年並み。

2018年度見通し

堅調な輸出と開発品の実績化により増収を計画も、
人件費増や設備投資による償却費増により減益の
見通し。



Ⅴ.新規開発品・注目製品のご紹介

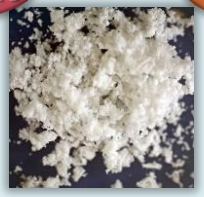
セルロースナノファイバー（CNF）

・植物由来の軽量、高強度次世代バイオマス素材

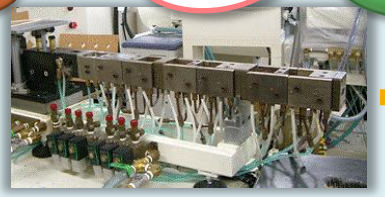
当社

変性剤 → 樹脂 → ココでナノ解繊 → 複合化

木材
パルプ



変性
セルロース



混練機

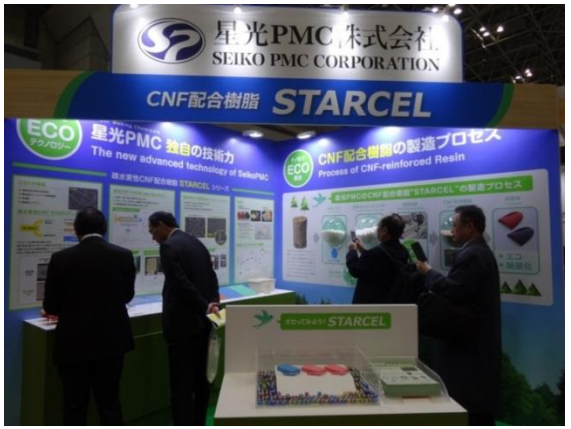
STARCEL®
CNF複合材料

成形加工メーカー

射出成型物

発泡成形物

- 生産能力増強工事を実施
  生産能力：約70t/年（変性セルロース）
  約200t/年（CNF複合材料）
- “STARCEL®” ブランドにて製品出荷開始
- “京都プロセス” による世界初の商業生産
- 自動車、建材、電子機器、身の回りの日用品に至る広範囲な分野においてCNFの市場でのプレゼンス確立を目指す



エコプロ2017　環境とエネルギーの未来展

V.新規開発品・注目製品のご紹介

銀ナノワイヤ

銀ナノワイヤ インク

銀ナノワイヤ

特徴

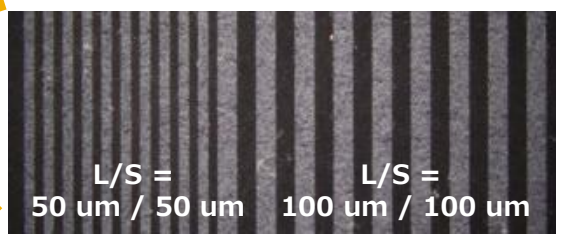
- 形状由来の透明性
- 銀由来の高い導電性
- 折り曲げに強い柔軟性

コーティング

透明導電フィルム

印刷

パターニング



透明電極

タッチパネル

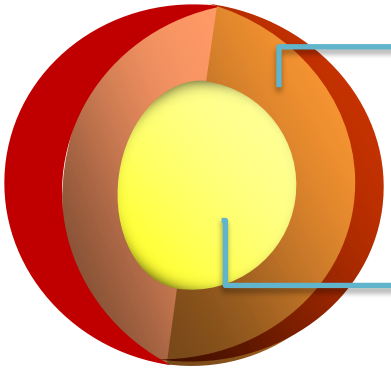
フレキシブルディスプレイ

ウェアラブルデバイス

- 当社コア技術の水性ポリマーの活用
- デバイスメーカーにて応用検討継続

Ⅴ.新規開発品・注目製品のご紹介

水性インキ用コア・シェル エマルション



【シェル部】
水溶性ポリマー

【コア部】
（スチレン）アクリル
（or 塩ビ）樹脂

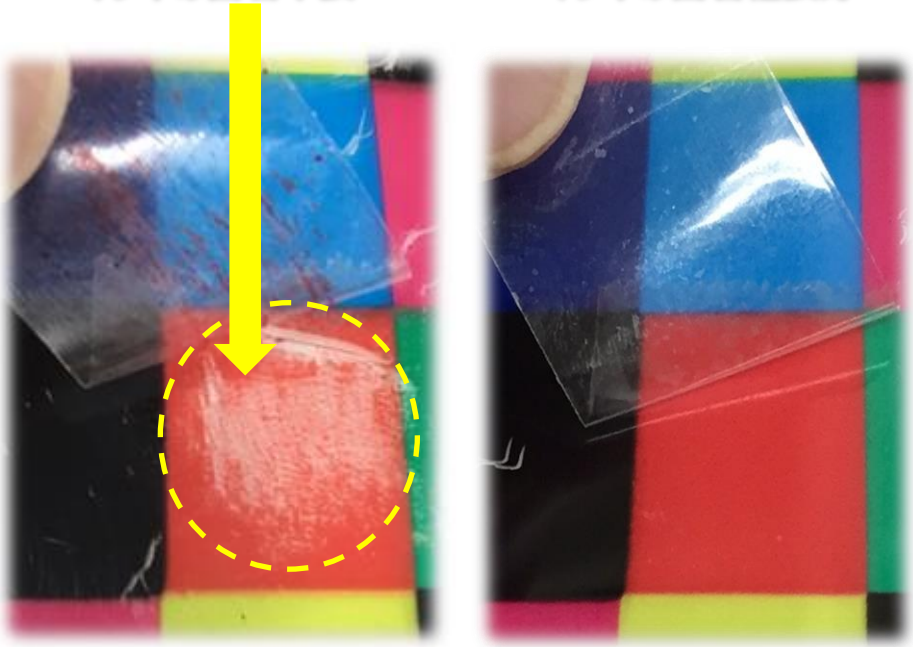
特徴
・環境に優しい水性製品
・界面活性剤フリー
・優れた安定性
・一液硬化性

環境問題が顕在化している国・地域に対し、水性インキ用コア・シェルエマルション技術を駆使して市場開拓を進めています

水性グラビアインキのフィルムへの密着性試験（基材：PETフィルム）

非硬化性エマルション
インキの密着不良

一液硬化性エマルション
インキの密着性良好



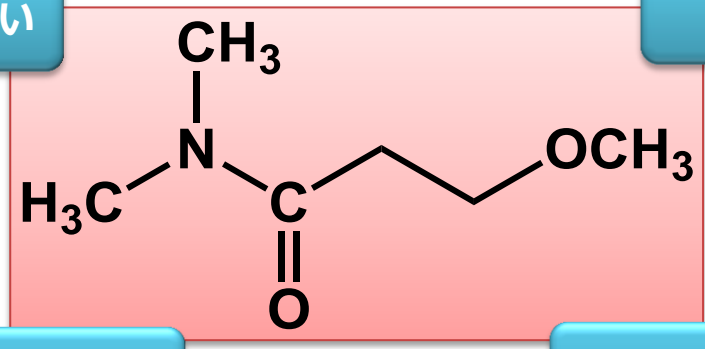
Ⅴ.新規開発品・注目製品のご紹介（KJCMPA®-100）

アミドエーテル系溶剤『KJCMPA®-100』

溶解性が高い

表面張力が低い

両親媒性

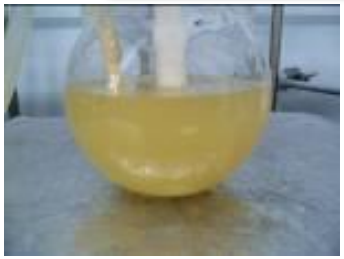


低粘度

安全性

ポリイミド前駆体合成例

KJCMPA-100
完全溶解



NMP
白濁

用途
- 半導体・液晶製造プロセスの洗浄剤・剥離剤
- スーパーエンプラ等の難溶解性樹脂用の溶剤
- 水系塗料、インキの造膜助剤
- 医薬、農薬の溶剤
- N-メチルピロリドン（NMP）の代替溶剤

Ⅵ.中期経営計画「CS VISION-Ⅱ」

（百万円）	2015年度実績 前中計最終年		2018年度			
			見通し *3		中計目標 *3	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
製紙用薬品事業	15,821	1,293 8.2%	16,675	1,594 9.6%	*17,334*	*1,700* *9.8%*
樹脂事業 *1	5,363	149 2.8%	5,292	312 5.9%	*5,866*	*478* *8.1%*
化成品事業	3,384	321 9.5%	3,953	463 11.7%	*4,000*	*448* *11.2%*
共通費・ 連結調整 *2		▲445		▲370		*▲426*
合計	24,569	1,318 5.4%	25,920	2,000 7.7%	*27,200*	*2,200* *8.1%*

＊1：樹脂事業には新規開発事業分を含みます。
＊2：共通費の主なものは、上記各事業に帰属しない研究開発費です。
＊3：見通しの前提条件：為替1ドル＝112円、ナフサ価格45,000円
　　中期経営計画の前提条件：為替1ドル＝123円、ナフサ価格43,000円

（ご参考）中期経営計画「CS VISION-Ⅱ」戦略

（１）国内事業基盤の強化

①製紙用薬品事業

成熟市場の中で
- 差別化されたソリューションの提供
- 製品の高性能化、新たな薬品の開発
  → 顧客との関係強化、市場シェア拡大

②樹脂事業

- 製品ポートフォリオの見直し
  ①競争力のある水性インキ用樹脂販売注力
  ②不採算品→高採算品への入替
- 生産体制の再構築
  工場設備合理化、
  工場ごとの生産品目見直し

③化成品事業

- 「○○くっつく○○」「○○混ざる○○」のコンセプトのもと機能性創造モノマー・オリゴマーの提供による、確固たる事業基盤の構築
- 3Dプリンター分野に向けた新素材開発と販売

（ご参考）中期経営計画「CS VISION-Ⅱ」戦略

（２）事業領域の拡大

①海外事業展開の加速

・製紙用薬品事業
　→　製品ポートフォリオを拡充し、
　　海外生産工場を最大限活用
・樹脂事業
　→　中国での印刷インキ水性化ニーズへの対応

②新規開発事業

・セルロースナノファイバー（CNF）
・銀ナノワイヤ
　→　事業化へ向けた取組の継続
・さらなる新規事業探索・事業化

（３）外部資源の活用

・上述の戦略を遂行するために
　→　当社及び他社の事業インフラの活用
　　（業務・資本提携の検討）
　→　M&Aの積極的な活用